

新生諸塚 ～森と絆が織りなす持続可能な未来～



諸塚村長
藤崎 猪一郎

はじめに

諸塚村は、宮崎県西北部に位置し、人口約1,300人、面積187.5km²の約95%が豊かな森林で覆われた小さな村です。

当村は、針葉樹と広葉樹が混在する「モザイク林相」が特徴で、持続可能な森林管理の成果として、山間地の農林複合経営の取組が評価され、世界農業遺産にも認定されています。さらに、日本初となる村ぐるみのFSC[®]森林認証(FSC[®]C012945)も取得するなど、多角的に森林の魅力を発信し、森林を重要な資源として活用しています。

また、「諸塚方式」として、全国的な先駆けである「自治公民館制度」では、行政と地域の自治公民館が相互に連携し、地域の問題解決や学習活動、住民同士の交流促進など、幅広い役割を担っています。

このように、当村は、豊かな自然環境と、それを守り生かす地域コミュニティを基盤として、未来へ向けた持続可能なむらづくりを推進しています。

「新生諸塚」始動

令和6年度(2024年度)は、令和4年9月の台風14号からの全村復興復旧を着実に進めていくことに尽力しつつ、この機を復旧・復興を経た新たな時代への足掛かりと捉え、「新生諸塚元年」として位置づけています。併せて、人口減少問題など村政の重要課題に対応すべく、役場の機構改革を行い、職

員の課題対応力強化を図るなど、新たな取組を推進しているところです。

人口減少問題への対応は、村の未来、子どもたちの笑顔、豊かな自然を守る最重要課題です。村民と共にこの危機を乗り越え、新しい諸塚村を築く覚悟です。

地域資源を活かした持続可能なむらづくり

「新生諸塚」の取組の1つとして、新たな価値を創造する「新価値創造プロジェクト」を推進しています。これは、豊富な村の資源を活用した新たな用途開発や既存商品の磨き上げを行い、資源の価値向上及び商品の充実や魅力向上、起業創出を図っていく取組です。

これまで、村のクヌギ・ナラ等大径材の用途開発のために、クヌギとコナラをボディに使用したギターの製作など、少しずつその取組を前進させているところです。

今後も、この取組を推進して、地域資源を活用した持続可能なむらづくりに努めていきます。



観光拠点～池ノ窪グリーンパーク～



新たなつながりの創出

人口規模が小さい村にとって、村外の人々が継続的に多様な形でかかわる「関係人口」の構築と強化は極めて重要です。こうしたことから、当村ではこれまで、都市部の大学生と連携して、村の地域資源を生かした商品開発とそのPRやマルシェの開催などの取組を行ってきました。

さらには、企業や団体と連携協定を締結し、地方創生の取組を推進するなど、多方面でのつながりを強化しています。こうした連携を深めることで、その成果を村の課題解決に生かしています。

また、移住支援として、村での生活を事前に体験できる「お試し滞在事業」の推進や国や県の支援に加えて、村独自の「移住支援金」を創設するなど、充実した移住支援を推進しています。

子育てしやすいむら

このような取組に加えて、当村では、子どもたちの未来を守るため、子育てしやすい環境の整備を図り、様々な取組に力を入れています。

特に、子育て世代の皆さんが安心して子どもを産み、健やかに育てることができるように、経済的負担の軽減に注力しています。具体的な支援としては、「出産奨励祝い金支給」や「子ども医療費助成」、「中学校卒業祝い金支給」、「高校生等への就学支援金の給付」、「給食費の無償化」などに加え、国に先駆けて実施している「出産費用の全額補助」など、手厚い支援策を展開しています。

また、「もろっこ夢応援事業」を通じて、村の将来を担う子どもたち（愛称「もろっこ」）の夢の実現に向けた挑戦を後押しし、地域の未来を支える人財の育成にも取り組んでいます。

当村は、豊かな自然環境に恵まれ、地域全体で子どもを見守り育てる「絆」の文化が根付いています。この温かいコミュニティの中で、子どもたちは健やかに成長することができます。



地域課題の解決と関係人口構築の一躍を担う大学生たち

村産品を販売している「やまの百貨店 もろっこはうす」

おわりに

充実した子ども・子育て支援や強力な移住支援、担い手対策などで、わずかではありますが、人口の社会減は抑制されつつあり、地域に明るい兆しが見え始めています。

今後とも、自立を決意した村として、「ふるさと」への誇りと自信を持って、小規模町村の強みを生かした施策を展開し、「新生諸塚」として、この地に住む価値をさらに高めてまいります。